



令和元年 12月9日(月) 第30号



平和学習会を終えて…[後編]



前回の[前編]に引き続いて、今回も平和学習会の感想を紹介します。この学年だよりを作っている今、アフガニスタンで、ピースジャパンメディカルサービス(平和医療団日本)総院長の中村さんが乗った車が銃撃され、命を落としたというニュースが飛び込んできました。30年間もアフガニスタンの医療のために力を尽くした人が命を奪われる…、やはり、この世界はまだまだ平和ではないようです。私たちは、引き続き、平和について考え続けなければなりません。

◆戦争をしてはいけないのはわかってはいたけど、「しない・させない・忘れない」を考えないといけないと思った。そのためには、広島や長崎に行って学ぶ。体験した人の話や映像を見て学ぶ。そして語り継ぐ。今、自分たちにできるのはそれではないかと思った。

◆放射能を受けた人の中には、小さな子ども、未来ある若者、家族のもとへ帰りたいと思っていた兵士、そんな人たちもいたと思うと、この人たちは何のために死んだのか、その人たちが一体何をしたのか、そんなことばかり考えてしまいます。しかし、「戦争は無意味だ。何も生まない」で終わらせたならダメだと思います。確かに戦争は悲しみしか生みません。でも、戦争や原爆によって命を落とした人は無意味じゃありません。戦争が無意味なもので終わらせず、意味のあるものにしなければなりません。

◆私は今日の話を聞いていろいろ思うことがありました。特にいろいろ思ったのが、「はだしのゲン」の作者中沢さんの動画です。私は「はだしのゲン」を読んだことはありませんが、少し刺激が強いことは知っていました。なので、今回見て、イラストからの人的な被害がすごくよくわかりました。今回のお話で、本当に目をつむってしまいたくなるようなお話はありましたが、日本人として知っておかなければならないことをたくさん教えていただきました。私ができることを考えながら、日々を過ごしていこうと思います。

◆ぼくは「はだしのゲン」の作者の話を聞いてゾッとしました。目の前では家族がまだ生きているのに救えず、ただ抱きしめて泣くことしかできないのはつらすぎるし、最後は家族の悲鳴を聞きながら逃げなければならないのは、まさに地獄だと思いました。ぼくなら精神がおかしくなると思います。でも、作者は思い出すまいとするんじゃなくて、それを作品として後の時代に残すという決断がすごい心だなあと感じました。

◆今日、原爆についての話を聞いて、改めて戦争とは本当にはいけないことだと思いました。何の罪もなく亡くなっていった人たちが家族や友人のことを思って亡くなったと考えると、すごく胸が痛いです。自分が本当に戦争や原爆を体験したわけではないので、体験した人の気持ちを理解することはできないけれど、悔いを残して亡くなっていった人たちの分、今の時代を生きる私たちが一生懸命生きなければならぬと思いました。

《裏面に続きます》





◆そのとき私たちはまだ生まれてもなく、何もわからない状態でしたが、その写真を見ると、その当時自分がいたらどうなっていたのだろうかと思い、心がすごく痛くなりました。被爆者が描いた絵を見ると、こんなにひどい出来事があって、多くの人がつらい思いをしたのだと改めてわかりました。貴重な話を聞かせていただいて、平和は自分が思っている以上に大切だとわかりました。

◆ぼくたちは戦争というものの体験したことがないので、「戦争は“とりあえず”ダメなんだ」という気持ちの人がほとんどだと思います。しかし、たぶん、経験した人にしかわからない“何か”がその人たちの心にはあるのだと思います。「戦争を体験していないのだから、とりあえずダメだけ言っておこう」ではなく、「そんなものを体験することがまずいけないこと。そして、そんなことをこれから一切しない」という気持ちを持つことが大切だと思います。

◆国が違ってみんな同じ人間なのに争っていることが、どうしてもつらいです。無関係な人までも巻き込む戦争は今すぐにでもやめるべきです。もう二度と同じ過ちを繰り返さないように自分でできることを考え、懸命に取り組みたいと思います。自分が生きている幸せ、ご飯をたくさん食べることができる幸せ、小さな幸せに感謝して生きていこうと思います。

◆「はだしのゲン」が、あんなに原爆の日のこと、被害の様子を生々しく描いている作品だということを初めて知りました。“戦争は恐ろしいものだ”とか、“戦争はしてはいけない”とかは教えられているけど、どんな人が、どんな風に被害にあったのか、そのことをどう思っているのか、戦争や原爆はその人の目にどう映ったのか、実際に体験談を聞くことは少ないだろうけど、そういうことを知ることはとても大切だと強く感じました。

◆戦争を経験している人は本当に苦しくて怖い思いをしていると思います。戦争を経験している人はこれからの日本のためにたくさんの知識を私たちに伝えてくれています。その気持ちに感謝して、しっかり答えていけるように自分も戦争についてたくさん知って、身の回りの平和というのを叶えていけるようにしていこうと思います。

◆被爆者の平均年齢は80歳をこえており、被爆体験を語れる人は少なくなっているが、その話を聞き、後世に伝えることはできる。いつまでも受け継ぐべきだと思う。国民全員が平和を保つという気持ちを持ち続けていくことが大事だと思う。次の世代にも積極的に今日聞いた話をし、戦争の怖さを伝えたい。

戦争が終わった1945年、私たち人類は「戦争なんて二度としない」と心に誓いました。あれから74年、戦争を体験した人の高齢化が進み、戦争体験者は確実に減っています。そんな中、人類があれほど憎んだはずの戦争が、何となく身近に迫りつつあるように感じてしまうのは気のせいでしょうか。たとえ戦争まではいかななくても、私たちの身の回りに“理不尽”や“暴力”はないでしょうか。【悪口】と【いじめ・言葉の暴力】と【ケンカ】と【戦争】は、すべて同じ線の上に乗っています。日常生活を注意深く観察し、丁寧に排除していく必要があります。



保護者のみなさまへ

2号にわたって生徒の感想を紹介しました。どれも、生徒たちなりに感じたことや考えたことを文章にしたものです。紹介したものはごく一部ではありますが、他の生徒もたいへん深く考えていたことが、その感想から読み取ることができます。生徒たちが“親”になったとき、我が子に対してどのように平和を語るのでしょうか。「平和学習」の取り組みは今後も続きますが、ぜひご家庭でも、機会をとらえて戦争や平和といったことについてお話をしていただきたいと思います。